

# 企業理念軸に経営品質向上



### 日本バルカー工業 瀧澤利一社長に聞く

企業理念を経営の中心に据える「ビジョナリー(理念)経営」を実施する日本バルカー工業。企業理念の「THEEVA LQUA WAY(バルカーウェイ)」は、多様化

は。◇：バルカーウェイと「グローバルに事業を展開していく過程で人材の多様化が進んでおり、さまざまな国や文化、民族の価値観が集まって一つの仕事を成し遂げるにはグループとして収斂する軸がある。この軸を握り所として仕事のやりがい、生き甲斐を育む攻めの側面、コンプライアンスを主体とした抑止力という守りの側面を車の両輪としてグループ共通の価値観にまとめたのがバルカーウェイだ」

◇：企業理念の意義や位置づけはどうか変わっ

## 製品とサービス一括提供

# シールエンジニア企業へ飛躍

「ここ数年はコンプライアンスやリスクマネジメントを優先していたが、現在はいかに品質を高めるかに焦点を当てている。メイドインジャパンの信頼を揺るがす品質管理問題があり、当社も新たな目で再点検している」

「しかし品質とは単に製品の問題にとどまらず、より大きな視点で捉える必要がある。『パリエー&クオリティー』の造語が当社の社名であり、常日頃から経営品質の向上を追求してきた。経営品質を構成する要素は製品や人であり、ハード・ソフトを含めた品質の向上に取り組むことで新たな価値を創造することが

「企業理念は唱えるだけのお題目では意味がなない。社員個々人が日々の業務において判断基準やモチベーションとして活用できるまでに落とし込み、実践、改善へとつながっていく必要がある。これを実現するための理解、実践、気づき、共有の過程を『バルカーウェイ黄金のサイクル』と名づけて絶え間なく回していく。1年間の取り組みを発表して内容の深さを幹部が評価するのが『バルカーウェイ世界大会決勝戦』であり、全世界10ブロックから選ばれた優秀事例を集めて1等、2等を決める。理念

「日常的な取り組みの成果を切り出して定量化することは難しいが、業界に先駆けて右縮製品の製造販売を止めることができたのは、バルカーウェイの存在が大きかった。法律が禁じる前に収益を犠牲にして環境対応を優先したことにさまざまな批判があったが、自らの価値基準に従った。その後、この決断は日本国内のみならず海外においても高く評価され、今日の当社の信用力となった」

◇：現在における時代に先駆けれた取り組みとは何ですか。  
「技能継承や設備の老朽化、海外移転などの事情で製造現場では当社が90年にわたり培ってきた当社のシールに関する知見が求められていると実感している。このため、製品(ハード)とサービス(S)を併せて提供していくH&Sの事業化に取り組んでいる。世界各国で種をまく過程で手応えを得ており、4月から開始する経営計画にはH&Sというコンセプトを実際に商品化し、業績化することを目指す。世界初のシールエンジニアリング企業へと変貌していく過程においてバルカーウェイが後押しとなる」

(聞き手：石井淳子)